

宝塚市の外来生物



■ 外来生物とは

外来生物とは、もともとこの地域にいなかったのに、人間活動によって海外から入ってきた生物のことを指し、この地域固有の生物である在来生物と区別されます。

明治時代以降、ペットや農業などのため、または意図せず日本に入ってきて、野外に定着した外来生物は、現在 2,000 種を超えるといわれています。

この中には、私たちの生活の中で身近になっているものもありますが、最近、こうした外来生物が定着することで起こるさまざまな問題が注目されています。

■ 外来生物の問題

野生生物は、気候や地形などの条件に適応しながら、地域ごとに特色のある生態系を形づくっています。

しかし、本来その地域に生息しない外来生物が入ってくると、その特色ある生態系が崩れてしまうおそれがあります。また、外来生物の中には、人の生命や身体、農林水産業などに悪影響を及ぼすものもあります。

生態系への影響

- ・ 在来生物の生息場所や餌を奪ったり、在来生物を捕食することがあります。
- ・ この地域にいなかった寄生物やウイルスなどが持ち込まれることにより、在来生物に深刻な影響を与えることがあります。
- ・ 近縁の在来生物と交雑して雑種をつくり、在来生物の遺伝的な独自性を損なうことがあります。

人への影響

- ・ 毒をもつ外来生物にかまれたり、刺されたりする危険があります。

農林水産業への影響

- ・ 畑を荒らしたり、農林水産物を食べて被害を与えることがあります。

■ 外来生物による影響を防ぐために

法律による規制

国では「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）が作られました。これは、外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業などに悪影響を与えるものを「特定外来生物」として指定し、これらの侵入・拡散を防ぐために、厳しい規制を定めるものです。

兵庫県の取り組み

兵庫県では、「外来生物法」で規制されるものの他、2010年に「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）」を公表しています。

宝塚市では

宝塚市では、「外来生物法」や兵庫県の公表した「ブラックリスト」に記載された外来生物がどれくらい市内に生育・生息しているのか、既往の資料をもとに調査しました。そのうえで、今後、市内に侵入する可能性のある種を加え、生物多様性に悪影響を及ぼすおそれのある外来生物リストをとりまとめました。

■ 宝塚市の外来生物リスト

植物（離弁花類）	シナサワグルミ、ヒメヤシャブシ、オオバヤシャブシ、シャクチリソバ、イタドリ、エゾノギンギシ、ヒイラギナンテン、セイヨウスイレン、ハルザキヤマガラシ、セイヨウカラシナ、オランダガラシ、タチバナモドキ、トキワサンザシ、イタチハギ、コマツナギ、マルバハギ、ハリエンジュ、ムラサキカタバミ、ナンキンハゼ、シンジュ、イチビ、アレチウリ、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、オオフサモ
植物（合弁花類）	トウネズミモチ、ヨウシュイボタ、オオフタバムグラ、メリケンムグラ、セイヨウヒルガオ、アメリカネナシカズラ、アレチハナガサ、ウルナスビ、フサフジウツギ、オオカラヂシャ、エフクレタヌキモ、ヘラオオバコ、ブタクサ、クワモドキ（オオブタクサ）、ヨモギ、アメリカセンダングサ、コセンダングサ、オオアレチノギク、オオキンケイギク、ヒメムカシヨモギ、ハルジオン、ミズヒマワリ、キクイモ、ブタナ、セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウ、メリケントキンソウ、ヒメジョオン、アカミタンポポ、セイヨウタンポポ、オオオナモミ
植物（単子葉植物）	オオカナダモ、コカナダモ、ホテイアオイ、キショウブ、ノハカタカラクサ、メリケンカルカヤ、ハルガヤ、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、オニウシノケグサ、チガヤ、ネズミムギ、ホソムギ、ススキ、キシウスズメノヒエ、オオアワガエリ、モウソウチク、セイバンモロコシ、ボタンウキクサ、メリケンガヤツリ
哺乳類	ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミ、ヌートリア、アライグマ、チョウセンイタチ
鳥類	ドバト、ソウシチョウ、カササギ
爬虫類	クサガメ、アカミミガメ
両生類	ウシガエル
魚類	カワマス、ニジマス、ソウギョ、コイ、タイリクバラタナゴ、タイワンドジョウ、カムルチー、オオクチバス（ブラックバス）、ブルーギル
昆虫類	外国産クワガタムシ科、アルファルファタコゾウムシ、ヒロヘリアオイラガ
無脊椎動物	セアカゴケグモ、アメリカザリガニ、スクミリンゴガイ、チャコウラナメクジ、台湾シジミ種群

赤字：特定外来生物（法律により飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いが規制されている種）

青字：緑化の際に外国産の品種を植栽しないように留意が必要な種（在来の自生種には害はありません）

■ 宝塚市のおもな外来生物

アライグマ

雑食性で果実や野菜、穀類、小動物などを食べ、都市ではペット用のえさや池で飼育されているコイなども食べます。

農作物に被害を与えるほか、民家の屋根裏などに住み着き、建物に穴をあけて傷つけることもあります。



ヌートリア

河川やため池の土手に巣穴を掘って暮らします。

野菜や穀物を食べるため、農作物に被害を与えます。野生の水生植物も大量に食べるため、生態系への影響も大きいと考えられています。



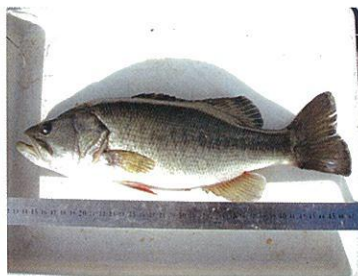
※アライグマ、ヌートリアは宝塚市で防除していますので、ご連絡ください。

《連絡先》 宝塚市役所 農政課 Tel 0797-77-2036

オオクチバス

ため池や河川の淀みに生息し、魚や水生動物を食べるため、生態系や漁業への影響が大きい種です。

特定外来生物に指定されており、捕まえた個体を運んだり、他の河川・湖沼に放流したりすると、罰せられます。



ブルーギル

ため池や河川の淀みに生息し、水生昆虫や魚卵、仔稚魚など、多様な動物を食べるため、生態系への影響が大きい種です。

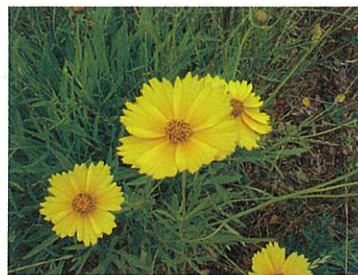
特定外来生物に指定されており、捕まえた個体を運んだり、他の河川・湖沼に放流したりすると、罰せられます。



オオキンケイギク

河川敷や路傍に生育する草本で、キクに似た大きな黄色い花が特徴です。繁殖力が強く、しばしば大群落を形成します。

ツメレンゲ、カワラサイコなどの在来植物が本種の影響により姿を消す可能性もあります。



オオバヤシャブシ

在来の種ですが、緑化用に外国産の種子が用いられることが問題になっています。

花粉症の原因となるため、民家周辺での過剰な繁茂は好ましくありません。中山台地区では、駆除の活動が行われています。



外国産

クワガタムシ科

ペットとして輸入されたものが野外に放たれたり逃げ出したりしています。

在来種と競合したり、交配して雑種を形成したりするなど、生態系への影響が心配されます。飼育個体は絶対に野外に放たないようにしてください。



スマトラオオヒラタクワガタ

セアカゴケグモ

人工物を好み、石や外壁の隙間や側溝の中など、さまざまな隙間に網を張って生息しています。

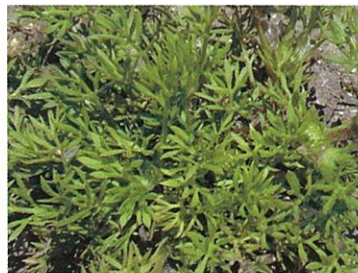
1cm以下の小さなクモですが、咬まれると痛みや発熱、嘔吐などの症状がでる場合があるので、見つけても触らないでください。



マリケントキンソウ

地面をほうように生える草本で、公園や河川敷などの日当たりのよい草地に生育します。

大きなトゲがあり、触ると痛いため、公園の芝生で繁殖すると、公園利用に支障をきたします。



エフクレタヌキモ

日当たりのよい池や水路、湿地などの水辺に生育します。

繁殖力が非常に強く、在来の水生植物の生育を妨げます。ため池や湿地、湿原といった水辺の生態系に大きな影響があると考えられます。



※今はまだいませんが、今後宝塚市に入ってくるおそれのあるものです。

■宝塚市の自然を守るために

わたしたちの宝塚市には、長い年月を経て受け継がれてきた、この地ならではの生態系があります。

もともとこの地域にいなかった動植物を野外に放つことは、この貴重な生態系を破壊することに繋がります。

ペットや観賞用などの動植物の遺棄はもちろん問題ですが、他地域のホタルや草花などを移植するなどの行為もまた、本来の生態系にとっては脅威となることもあるのです。

一度野外に定着してしまった外来生物を駆除するには多大な労力が必要となり、元の自然環境を取り戻すことが不可能になることさえあります。

外来生物の影響からこの貴重な自然環境を守るには、生き物を野外に放さない、飼育するときは最後まで責任を持って飼う、という私たちの心がけがとても大切です。



表紙の生物：ボタンウキクサ、ウシガエル、オオフサモ、アメリカザリガニ

お問い合わせ先

宝塚市役所 環境部 環境政策課

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号
TEL 0797-71-1141 (代表)